

 第14回

さくらサミット in NEO

さくらと歩む地域の未来

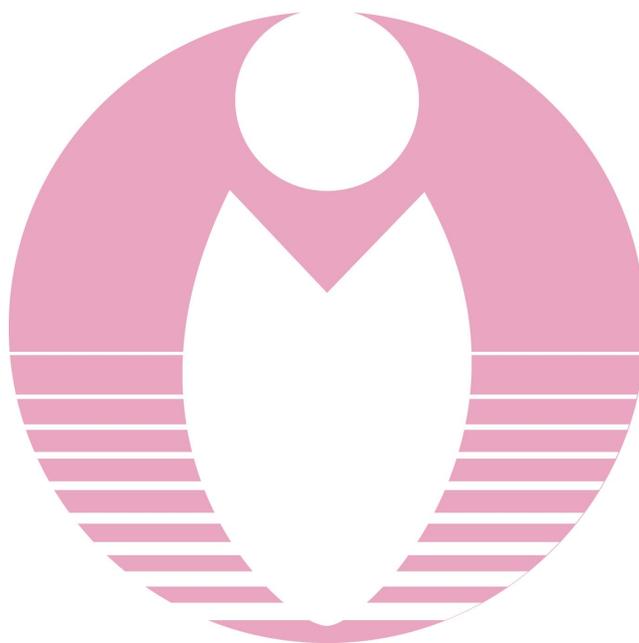
会場：根尾村文化センター ほか

主催：岐阜県根尾村



 さくらサミットシンボルマーク	3
 さくらサミット憲章	4
 outline	5
 Schedule	6
 開催地あいさつ	8
 Profile	10
 サミット加盟自治体紹介	11
■北海道静内町	12
■宮城県柴田町	13
■秋田県角館町	14
■福島県富岡町	15
■茨城県日立市	16
■群馬県宮城村	17
■埼玉県北本市	18
■埼玉県幸手市	19
■東京都北区	20
■新潟県上越市	21
■新潟県加治川村	22
■長野県高遠町	23
■愛知県三好町	24
■奈良県吉野町	25
■鳥取県西伯町	26
■島根県木次町	27
■島根県美都町	28
■高知県佐川町	29
■長崎県大村市	30
■熊本県水上村	31
■宮崎県北郷町	32
■岐阜県根尾村	33
 MEMO	34

 さくらサミットシンボルマーク



さくらサミットのシンボルマークは、長野県高遠町で開催された第2回さくらサミットで採択されました。地球をあらわす円と桜の花びらで構成され、全体として人をイメージ化しています。人と人、まちとまちから始まるサミットの連帯・協力・調和が、グローバルな広がりを見せ、未永く継続していくことを表現するシンボルとして制作されたものです。



さくらサミット憲章（平成元年9月22日制定）

Success

成功

第1条： 今後ともさくらサミットを開催し、サミットとサミットに参加するそれぞれの自治体のまちづくりを成功させるため互いに取り組みを進めます。

Approach

接近

第2条： 「21世紀のまちづくり」という目標を限りなく実現に近づけるため、相互に連携、協力しあって花を咲かせることが出来るように努めます。

Keyword

言葉

第3条： まちづくりの共通標榜である「桜」をキーワードとして「桜」に関する人や物の交流、情報の交換を行い、新しいまちづくりの手がかりを見出します。

Unity

調和

第4条： 文化、教育、福祉、産業、観光そして災害対策などにおいて、相互の連携、協力をとり、調和のとれたまちづくりを行なうよう心がけます。

Relation

縁

第5条： 「桜」によって結ばれた縁を大切にし、お互い友好を深め、21世紀に向かって前進していきます。

Agreement

合意

第6条： 共通の目標に向け、ふれあいと連携を築き、それぞれの自治体の進展と住民の生活文化向上に努めることに合意します。

 **outline**

- 名称 第 14 回さくらサミット in NEO

- テーマ さくらと歩む地域の未来

- 目的 「桜」をまちのシンボルとし、桜によるまちづくりを推進しようとする自治体が一堂に会し共通の課題について討議し、参加自治体の連携促進を図る。

『さくらと歩む地域の未来』をテーマに、地域にとって桜の存在を再認識し、現状の問題点を語り合いながら、未来に向けて桜を活かしたまちづくりを討議する。

- 日時 平成 14 年 5 月 17 日（金）～19 日（日）

- 会場 根尾村文化センター、淡墨公園、うすずみ温泉ほか

- 主催 根尾村

- 後援 岐阜県、根尾村商工会、根尾村社会福祉協議会、岐阜新聞

- 参加自治体

■ 北海道静内町	■ 長野県高遠町
■ 秋田県角館町	■ 愛知県三好町
■ 福島県富岡町	■ 奈良県吉野町
■ 茨城県日立市	■ 島根県木次町
■ 埼玉県幸手市	■ 長崎県大村市
■ 東京都北区	■ 熊本県水上村
■ 群馬県宮城村	■ 宮崎県北郷町
■ 新潟県上越市	■ 岐阜県根尾村





Schedule

平成14年5月18日（土曜日）

- 11:30 🌸 参加者受付
【会場】JR大垣駅「6番ホーム」
- 12:03 🌸 サミット 事前会議
【会場】樽見鉄道車輦内（大垣駅～樽見駅）
- 13:04 🌸 樽見駅着・移動
- 13:20 🌸 オカリナ演奏
【出演】根尾中学校
- 13:30 🌸 サミット 開会
 ■主催者挨拶：根尾村長 所和 徳
 ■来賓挨拶：岐阜県知事 梶原 拓
 ■来賓紹介：岐阜県議会議員 松野幸昭
 ■：岐阜県議会議員 戸部一秋
 ■：財団法人日本さくらの会事務局長 本間 寛
- 13:45 🌸 第1回淡墨桜絵画コンクール表彰式
 ■大賞 優秀賞 ■根尾村長賞
 ■根尾村議会議長賞 ■岐阜県知事賞 ■審査員特別賞
- 14:00 🌸 記念講演
 【講師】有馬頼底老師（金閣寺住職）
 【テーマ】日本人の心
- 🌸 第6回さくらサミット大賞 押花絵コンクール表彰式
 ■根尾村長賞 ■根尾村議会議長賞
 ■根尾村教育長賞 ■根尾村郵便局長賞
 ■うすずみ温泉賞 ■財団法人日本手芸普及協会賞
 ■ふしぎな花倶楽部賞
- 15:05 🌸 休憩
- 15:20 🌸 サミット 討議
 【テーマ】「さくらと歩む地域の未来」
 【参加自治体】16団体
 【コーディネーター】篠田伸夫氏（全国町村議会議長会事務総長）
- 17:20 🌸 共同宣言文採択
 🌸 次期開催地発表・挨拶
- 17:35 🌸 サミット 閉会
- 18:30 🌸 交流会
 【会場】うすずみ温泉
 ■主催者歓迎の挨拶：根尾村議会議長 村瀬 治
 ■乾 杯：岐阜地域振興局長 新家武彦
 ■来 賓 挨 拶：岐阜県議会議員 松野幸昭
 ■：岐阜県議会議員 戸部一秋
 ■余 興：継体桜太鼓演奏
 ■閉 会：根尾村助役 佐藤時久

平成 14 年 5 月 19 日 (日曜日)

9:00  記念植樹

【会場】うすずみ温泉「芝生広場」

【樹種一覧】

No.	都道府県	自治体名	苗木の種類
1	北海道	静内町	エゾヤマザクラ
2	宮城県	柴田町	ヒガンザクラ
3	秋田県	角館町	ベニシダレザクラ
4	福島県	富岡町	ソメイヨシノ
5	群馬県	宮城村	エドヒガン
6	茨城県	日立市	大島桜
7	埼玉県	幸手市	ソメイヨシノ
8	東京都	北区	エドヒガン
9	新潟県	上越市	ソメイヨシノ
10	新潟県	加治川村	寒緋桜
11	長野県	高遠町	タカトオコヒガンザクラ
12	岐阜県	根尾村	淡墨桜
13	愛知県	三好町	関山桜
14	奈良県	吉野町	シロヤマザクラ
15	島根県	木次町	笹部桜
16	長崎県	大村市	オオムラザクラ
17	熊本県	水上村	エドヒガンザクラ
18	宮崎県	北郷町	八重桜 天の川
19		根尾小学校	淡墨桜

9:45  体験会

【会場】うすずみ温泉「体験工房」

- ①陶芸工房：陶板に各自治体代表者による名入れ
- ②パン工房：パンの試食

10:20  見学会①

【会場】根尾村地震断層観察館

 見学会②

【会場】根尾村郷土資料館

11:50  昼食

【会場】淡墨公園

12:20  村長挨拶

12:40  解散

開催地あいさつ

根尾村長 所和徳

全国各地から根尾村へようこそお越しくささいました。心より歓迎いたします。



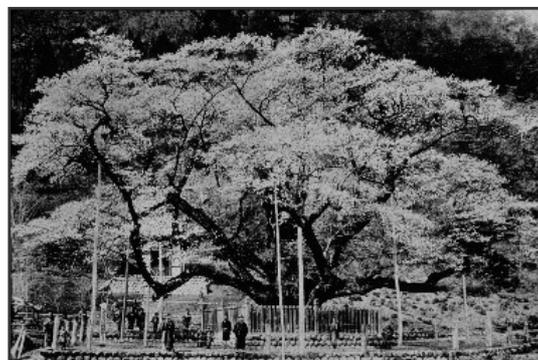
根尾村は、美しい山並みに囲まれ、きれいな水や澄んだ空気とともに四季折々の素晴らしい景観を形成している自然豊かな村です。

この自然豊かなうすずみの郷で「第 14 回さくらサミット in NEO」が開催されることは誠に意義深いものであり、ご参加いただいた皆さま方をはじめ、関係各位に厚くお礼申し上げる次第であります。

根尾村では、『桜（はな）拓く 21 世紀・ふれあいとやさしさの郷 NEO』を村づくりのテーマとして、恵まれた自然環境と豊かな文化資源や観光資源を活用した若者の定住する活力ある文化の高いむらづくりの推進に努めております。

さて、根尾谷の淡墨桜は、今から 1,500 年余り昔、後の継体天皇である、男大迹王が根尾谷を去るときにお手植えになった桜であると伝えられております。

淡墨桜は、その後長きにわたって生き続けている由緒ある桜の代表的巨樹として大正 11 年に、内務省天然記念物に指定されました。村ではこの老木の保護にいろいろと努めてまいりましたが昭和 23 年頃には遂に枯死寸前の状態となり、当時老木の起死回生の名手として知られた、岐阜市の医師



前田利行翁にその策をゆだね、翌年、238 本の根接ぎを行うという大手術が行なわれました。その結果、現在では毎年見事な花を付け、開花の時期には多くの人々がこの地を訪れるようになりましたが、一方では、時期的な集中による交通渋滞や開花時期以外の集客などの課題をかかえております。翌年、238 本の根接ぎを行うという大手術が行なわれました。その結果、現在では毎年見事な花を付け、開花の時期には多くの人々がこの地を訪れるようになりましたが、一方では、時期的な集中による交通渋滞や開花時期以外の集客などの課題をかかえております。

ところで、岐阜県には、岐阜の三代桜である当村の淡墨桜、宮村の臥龍桜、荘川村の荘川桜を始めとし、さまざまな桜の名所を有しておりますが、当村と同様それぞれ桜を核とした観光の通年化や開花時期における観光流通対策などの課題をかかえております。そこで、今回のサミットのテーマを『さくらと歩む地域の未来』とさせていただき、皆さま方にとっても共通の課題でもある「さくらを中心としたまちづくり・さくらをめぐる観光と交通」について大いにご議論していただきながら、地域の発展に貢献できるよう意見の交換を深め、ネットワークの輪を広げて行きたいと考えております。



また本日は、淡墨桜のご縁で金閣寺の住職であります有馬頼底先生をお招きして、「日本人の心」を演題として記念講演をお願いいたしております。

最後になりますが、第14回さくらサミット in NEOを本村において開催させていただくに当たり参加自治体の皆さまはもとより、コーディネーターの篠田伸夫先生をはじめ、関係各位のご協力をいただきましたことを心から感謝申し上げますとともに、本日まで参加いただきました皆さまのご健勝とご多幸を祈念いたしまして、ごあいさついたします。



 **Profile**

■有馬頼底（ありま・らいてい）

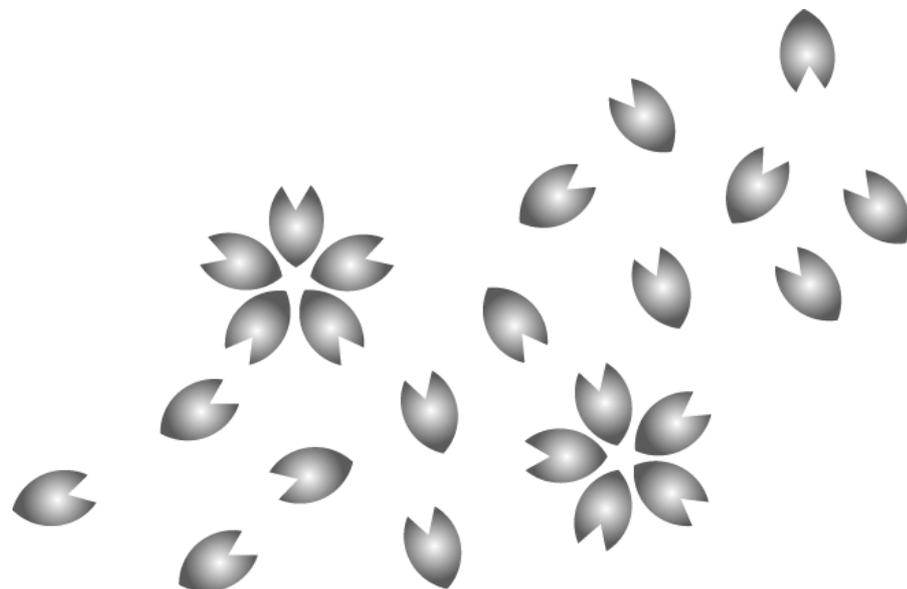
昭和8年東京都に生まれる。8歳で得度。22歳の時に京都相国寺僧堂に入り、大津樞堂老師に師事。大本山相国寺派の教学部長を経て、平成7年に臨済宗相国寺派管長に就任し、現在に至る。また、金閣寺、銀閣寺住職、相国寺承天閣美術館館長、京都仏教会理事長も兼ねる。



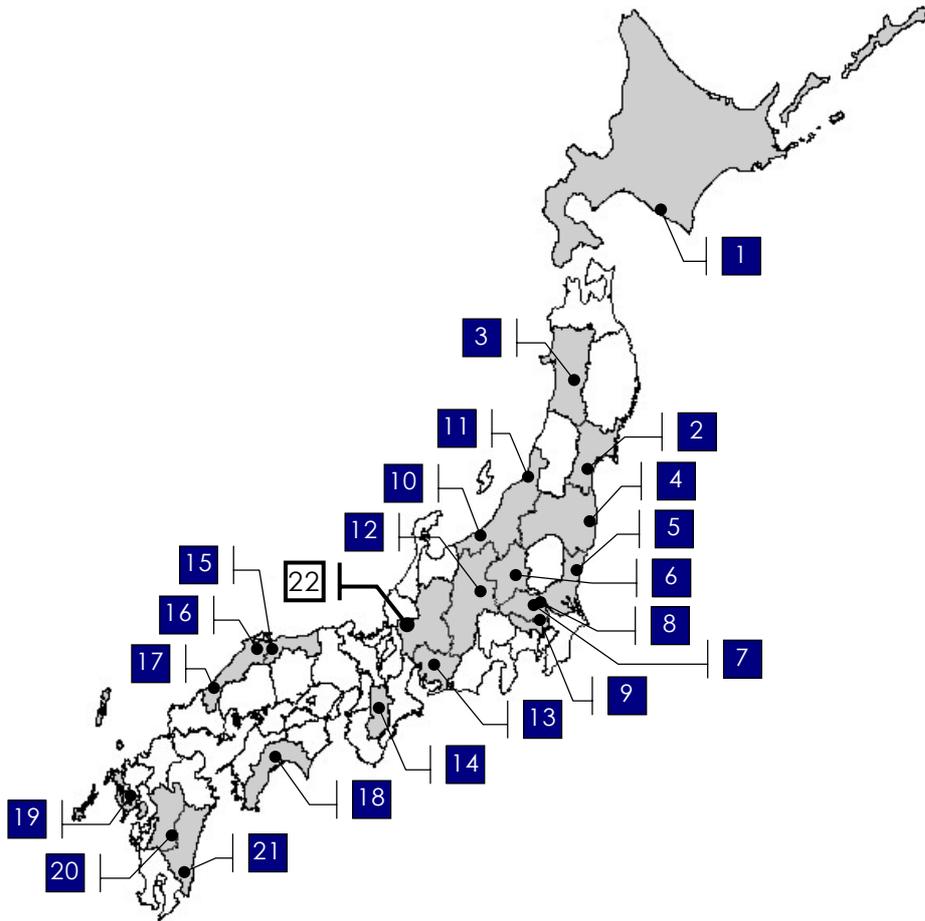
現在、社会福祉活動の推進や、京都の景観問題に取り組んでおり、また、年間数度の訪中を重ね中国禅宗遺跡の復興に努力している。

■篠田伸夫（しのだ・のぶお）

全国町村議会議長会事務総長。昭和18年鳥取県生まれ。昭和42年京都大学法学部卒業後、自治省入省。青森県地方課長、出雲市助役、消防庁救急救助室長を経て、昭和62年より岐阜県総務部長兼博覧会推進局長として「ぎふ中部未来博覧会」を成功に導く。平成元年自治省振興課長、平成2年東京都総合計画部長、行政部長、平成5年岐阜県副知事を経て、平成9年1月より消防庁次長を務める。平成10年7月より（財）救急振興財団副理事長、平成12年4月より現職。



サミット加盟自治体紹介



- | | | | |
|-----------|-----------|------------|-----------|
| 1 北海道静内町 | 2 宮城県柴田町 | 3 秋田県角館町 | 4 福島県富岡町 |
| 5 茨城県日立市 | 6 群馬県宮城村 | 7 埼玉県北本市 | 8 埼玉県幸手市 |
| 9 東京都北区 | 10 新潟県上越市 | 11 新潟県加治川村 | 12 長野県高遠町 |
| 13 愛知県三好町 | 14 奈良県吉野町 | 15 鳥取県西伯町 | 16 島根県木次町 |
| 17 島根県美都町 | 18 高知県佐川町 | 19 長崎県大村市 | 20 熊本県水上村 |
| 21 宮崎県北郷町 | 22 岐阜県根尾村 | | |

1 北海道静内町【www.hokkai.or.jp/shizunai】

■まちの概要

雄大なる日高山脈と太平洋に囲まれた「静内町」は、競走馬のふるさととして有名な日高地方の中核都市。農林漁業のほか商工業、各種産業が発達した人口 23,200 人、10,200 世帯の緑豊かなまち。



■さくらの概要

直線約 7km にもおよぶ“日本一の桜並木”として知られる二十間道路桜並木。

道路幅が二十間（約 36m）あることから「二十間道路」と呼ばれるようになったこの道の誕生は、明治 36 年のこと。

当地を訪れる皇族等を迎えるために幅二十間、延長 2 里（8km）という雄大な行啓道路が造成され、沿道を埋め尽くす桜が植栽されたのは大正 5 年のこと。

大正 7 年までの 3 年の歳月を費やし、当時の御料牧場職員の手により近隣の山々から移植された桜は、ほとんどがエゾヤマザクラであり、風雪に耐え、幾多の存亡の危機を乗り越えながら今も北の大地に遅い春の訪れを告げるかのように咲きつづけている。

■サミットテーマ「さくらと歩む地域の未来」について

① さくらを中心としたまちづくり

静内町における年間観光入込み客数の約半数を占める二十間道路桜並木。

また、5~8 月までのいわゆる春～夏シーズンにかけての 4 ヶ月間において年間の 80% を超える観光客が集中している現象が数年来続いている。

日高山脈と太平洋に囲まれた立地条件が生かされた自然景観をはじめ、競走馬として活躍した有名馬達が暮らす緑豊かな牧場群など幾多の観光資源を保有しているが、受入れ体制の不備、PR 不足等により活かしきれていない状況にある。

観光の通年化を図るとともに他の観光資源との連携を図るべく、二十間道路桜並木沿いに「秋の桜」であるコスモスの植栽、各観光地を巡る観光周遊バスの運行など各種事業に取り組んでいる。

② さくらをめぐる観光と交通

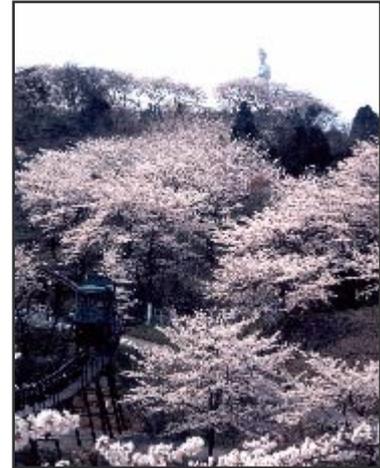
流通事情として日高地方においては、主要道となる国道 235 号線 1 本に依存している現状であり、交通の生命線となっている。このため、桜の開花時期ともなると、毎年の風物詩の如く交通渋滞が繰り返されており、近隣地域にも多大なる影響を与えていることから、交通網の整備が急がれている。

宿泊施設は、町内にホテル、旅館等 25 軒程が軒を並べているが、ビジネス関係者向けの施設が多く、観光客向けとしての宿泊施設が少ない現状にある。大都市札幌から日帰り圏内に位置するが、宿泊施設の整備を進め、滞在型観光への転換を推進していかなければならない。

2 宮城県柴田町【www.jet.ne.jp/%7Eshibata】

■まちの概要

仙台から南に25km、JR東北本線「槻木駅」と「船岡駅」のある町。そして槻木から阿武隈急行で最初の東船岡駅も柴田町。町の中央部を蔵王山麓を源とする白石川が流れ、町の東端を流れる阿武隈川と合流する、人口約39,000人、世帯数約12,000の県内最大規模の町。温暖な気候で稲作をはじめ花や果樹栽培が盛んな一方、県内第4位の製造品出荷額を誇る工業の町でもある。



■さくらの概要

例年4月10日から25日までの期間で、さくらまつりが開催されている船岡城址公園は、町南西部に位置する独立型山状の四保山にあり、樹齢100年近いソメイヨシノなど1,000本あまりが咲き乱れる。また、白石川堤の桜は「一目千本桜」の愛称で親しまれ、柴田町から大川原町まで総延長8kmに約1,000本のソメイヨシノが植えられ、開花時には並行して走っているJR東北本線の電車も「花見徐行」運転を行っている。この桜は大正12年白石川堤防改修工事記念として植樹され、残雪を抱く蔵王連峰を背景にした景観は、時刻表の表紙に登場して観桜客の目を楽しませている。

■サミットテーマ「さくらと歩む地域の未来」について

①さくらを中心としたまちづくり

柴田町では平成12年度に「しばたの桜100年基本計画」を策定した。

これは、およそ100年の歴史を持つ桜の景観を町の誇りとし、一般にソメイヨシノの寿命が60~100と言われている中で、桜の景観を今後も維持発展するために、100年先を見据えた方針とそれに基づく基本計画を策定した。

今後はいかにこの計画を実行していくかが問題である。また好まれる桜は、その時代々々により変わるであろうし、その土地に合う桜の種類・品種と希望とをすり合わせ、いかに土地にあった桜を植えていくかが今後の課題である。

②さくらをめぐる観光と交通

柴田町の桜の名所のひとつ「船岡城址公園」のある四保山は、街の西側に立つ130m程の独立峰であり、「一目千本桜」の白石川堤にも隣接している。公園は、駅から1km程度の徒歩圏の距離ではあるが、自家用車を利用しての花見客が多く、開花期間には道路の渋滞・駐車場不足の問題が発生している。しかし、四保山は、ほとんど全域が史跡指定であるため、「土地の形状を変える」ということが極めて困難で、通り抜けできる道路・駐車場などの新設ができないばかりでなく、遊歩道の計画さえも困難である。

3 秋田県角館町【www.town.kakunodate.akita.jp】

■まちの概要

秋田県のほぼ中央部東端に位置し、面積156平方km、人口約15,000人、約4,900世帯の町である。清流玉川と桧木内川の合流域に沿って南に開けた盆地の城下町。藩政時代から仙北郡北部の政治、経済、文化の中心としての役割を担ってきた。元和6年（1620年）当時の町並みが現存し、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、多くの観光客が訪れている。稲作が主要産業だが、山桜の樹皮を使った伝統産業榊細工でも知られている。



■さくらの概要

角館町には、国指定の桜名所が2箇所あります。

①桧木内川堤（サクラ）：昭和50年国名勝に指定（延長1,950m 409本）

街の真中には、一級河川「桧木内川」があります。昭和6年の凶作による救農土木事業として堤防の築堤に着手し、昭和8年に2kmが完成しました。翌9年の春、今上天皇陛下のご誕生を祝し、併せて、堤防の完成を記念し町民総出でソメイヨシノの苗木600本を植栽しました。その後、戦後の混乱期を乗り越えて成長して壮観な並木になっております。

②角館のシダレザクラ：昭和49年国の天然記念物に指定（153本）

藩政時代、当地の所預だった佐竹義隣は、京都公家の出身、また二代義明の正室も京都から嫁いで来たこともあって京文化の移入に努めたそうです。この当時、京都からシダレザクラの種が運ばれ大事に育てられたのが角館のシダレザクラの起源とされています。

■サミットテーマ「さくらと歩む地域の未来」について

①さくらを中心としたまちづくり

さくら祭りの中心になるさくらについては、ツアー客が多く弘前の桜と比較されるのでもっと保存管理を充実させなければならない。保存管理の中心となる組織、例えばNPO法人の設立、管理費の捻出方法等課題がある。

他観光とのネットワーク化については、仙北郡北部4箇町村が連携北仙北広域観光協議会を組織し春には花紀行バスの運行、当地のサクラの他、かたくりの墨、みずばしょう群生地を巡るツアーを、花期以外にはそれぞれの持っている観光スポットを紹介するパンフレットやビデオを制作PRに努めている。

また、桜についても青森県の弘前市、岩手県の北上市とみちのく三大桜名所連絡会議を組織し、それぞれの桜の名所情報の提供やパンフレットを作成してPRに努めツアー客の誘致を行っている。

②さくらをめぐる観光と交通

桜の開花時はどこの桜名所もそうですが観光客が集中して車の渋滞、駐車場、トイレ、ゴミ処理と問題を抱えます。当地は秋田新幹線こまち号で東京駅から3時間30分位ですが、やはり土日になりますと町中の道路が車で溢れてしまいます。要所要所にはガードマンを配置して交通整理していますが、同時に職員も出て連絡を取り合い、空き駐車場の案内に努めている。これからは、美野町のように町の外に駐車場を確保してシャトルバスの運行などの工夫も必要である。

さくら祭りの短期間に集中する宿泊客に対応するためには、仙北郡北部4箇町村が連携する北仙北広域観光協議会を通じて周辺の旅館、ホテルの空室状況を常に把握して地域の宿泊施設をフルに活用している。

4 福島県富岡町【www.tomioka-town.org】

■まちの概要

福島県浜通り地方の中央に位置し北は大熊町、西は川内村、南は楢葉町とそれぞれ境を接し、阿武隈山地と太平洋との間に広がる東西 12.7km、南北 9km とやや短形の面積 68.47km、人口約 16,000 人の町。

■さくらの概要

昭和 40 年代初頭からの電源開発により、地域社会経済が目覚しく発展してきたが、大規模プロジェクトが峠を越えた現在、21 世紀に向け「ポスト原発」を合言葉に電源立地町として特色ある町づくりを目指し、地域振興を推進している。

本町の桜はほとんどが「ソメイヨシノ」であり、町内に約 2,000 本植えられている。その歴史は、明治 33 年に農村開発のモデルとして当地に入植した半谷清寿氏が農場や宅地の周りを半谷農場として開拓し、約 300 本のヨシノザクラをはじめ種々の樹木を植えたのがはじまりである。次男の六郎（のちに町長）は、父の意志を継いでこの地をサクラの名所にしようと、明治 44 年に約 1.5km の道の両側に約 300 本のサクラを植えその後もサクラを増やし続けた。一時期公園敷地の一部が「日本サクラの会」の所有となったが、昭和 55 年それを町が買受け、夜の森公園として都市計画決定を受け都市公園として位置付けた。更に昭和 56 年「緑の文化財」、昭和 60 年「ふくしま緑の百景」の指定を受け、現在に至っている。



■サミットテーマ「さくらと歩む地域の未来」について

①さくらを中心としたまちづくり

浜通り随一の名所として知られる夜の森の桜は、本町の貴重な観光資源として位置付けており、これらの魅力については町内外に「桜の名所」として知られ、毎年桜の季節になると樹齢 100 有余年の吉野桜が咲き乱れたトンネルは、多くの観光客を魅了しております。

現在町においては、より多くの観光誘客を図り観光事業を伸展させていくため、桜を活用した地域間交流推進事業や町の特産品の拡充・PR 事業に努め、桜を核にしたイメージアップを進めております。

特に、「桜にまつわる思い出の手紙」は、国内はもちろん海外からも多くの作品が寄せられましたことは、桜に対する関心の高さがしめされておるものであり、今後も、桜を中心とした町づくりを推進してまいります。

②さくらをめぐる観光と交通

交通に関しては、常磐線、国道 6 号、288 号、114 号を主に東西南北利用しているが、近く常磐自動車道の（仮称）富岡インターまでの延進が待たれるが平成 15 年度建設開始を目指し、インター周辺整備を計画している。

宿泊については、地元民間施設及び隣接町との協力があれば公的施設を含め十分対応が可能であり、広い経済効果と相互協力が必要である、また、他町村を含め観光資源を広く求めることができる。

PR の展開は、花ばかりでなく地元特産品等の開発と合わせ、観光客が感じる付加価値をどうするかを考えることが大事で、現在さくら飯などの食と特産品の開発に力を入れる必要がある。

5 茨城県日立市【www.net-ibaraki.ne.jp/hitachi】

■まちの概要

水戸藩第 2 代藩主徳川光圀が、「朝日の立ち昇る光景は領内一」と讃えた故事から「日立」になったといわれる。太平洋と阿武隈山地に囲まれた自然豊かなまちであり、また、わが国を代表する企業城下町である。

特色としては、市民運動が盛んで福祉事業や生涯学習、地域コミュニティからさくらのまちづくりまで、多くの団体が幅広く活動をしている。「創造とふれあいの都市・日立」を目指し、県北部の中核都市として機能強化を図るため各種事業を展開している。



■さくらの概要

大正の初め、銅の精錬に伴って発生した煙害で荒廃した山々に、日立鉱山がオオシマザクラなど煙害に強い苗木を大量生産して植林したのが始まりとされる。一説には、約 260 万本の桜苗を植えたとされる。鉱山は桜苗の栽培技術を応用し、ソメイヨシノを社宅や工場などの周りに植栽してきた。昭和初期には、鉱山による桜の植栽と咲き誇る花々の素晴らしさを讃え、日立製作所の役員が「桜塚」を建立して贈る、という美談も現在に語り継がれている。

一方、市は昭和 20 年の戦災により焦土と化した市街地の復興を図るとともに、市民の安らぎの場を作るため、昭和 20 年代後半「平和通り」や「かみね公園」にソメイヨシノなどの桜を数多く植栽した。この桜は平成 2 年「日本のさくら名所 100 選」に選ばれ、毎年、桜の季節には、50 万人近い観光客を集めて「日立さくらまつり」が開催される。

■サミットテーマ「さくらと歩む地域の未来」について

① さくらを中心としたまちづくり

日立市では、まちの魅力づくりと交流人口の拡大に向けた施策の一つとして「桜」を活用したまちづくりを推進している。桜の季節には、「さくらまつり」や「さくらロードレース」が開催されて賑わっているが、桜を核とした観光の通年化には至っていないのが現状である。そのような中、市民ボランティア団体が主催で日立鉱山・日立製作所の史料や産業遺産が展示されている記念館と市内に点在する桜の名所を巡るバスツアーを実施し他資源とのネットワーク化に取り組んでいる。一方、動物園、奥日立きらの里、海水浴場、ハイキングコースなどの観光レクリエーション施設では、年間を通じて観光客が訪れるが、今後は、誘客拡大に向けてこれら既存施設の魅力アップや各施設を有機的に結ぶルート化を検討していくことや近代産業都市として発展してきた当市に残る多くの産業遺産の掘り起こしと活用が課題となっている。

② さくらをめぐる観光と交通

【PR】

首都圏への PR を図るため、新聞、雑誌へ依頼するほか、関東一円及び仙台までの JR 主要駅に駅貼りポスターを掲示する。また、福島方面への観光キャンペーンを実施し、ラジオ・テレビ局を訪問し誘客 PR を行っている

【交通】

イベント日には、平和通り会場(約 1km)を交通規制し歩行者天国としている。また、まつり会場に近い市民広場を開放し、臨時駐車場としている。

6 群馬県宮城村【www.myg.or.jp】

■ まちの概要

赤城山南麓の緩傾斜地に位置する宮城村は、面積 48.15 平方 km、人口約 8,900 人の農山村である。「三夜沢赤城神社」などの史跡や「ぐんまフラワーパーク」など観光資源も多く「花の村」としても発展しつつある。



■ さくらの概要

さくら 100 選「赤城南面千本桜」は、昭和 31 年から 33 年にかけて、地域の役員や青年団員が緑化推進事業の一環として植栽したものである。毎年 4 月中旬には、1,200 本のさくらが約 2km の花のトンネルを造り、多くの観光客で賑わう。銘酒「赤城南面千本桜」、「さくらまんじゅう」も商品化され、村の特産品に加わった。

■ サミットテーマ「さくらと歩む地域の未来」について

① さくらを中心としたまちづくり

今後、「赤城南面千本桜」を中心とした「さくらの公園」整備事業を実施する。将来的には、隣接の赤城高原牧場「クローネンベルク」及び三夜沢赤城神社、参道松並木、みやぎふれあいの郷、ぐんまフラワーパーク、どんぐりの森、天神山自然公園などを周遊する観光ルートを整備していく。

② さくらをめぐる観光と交通

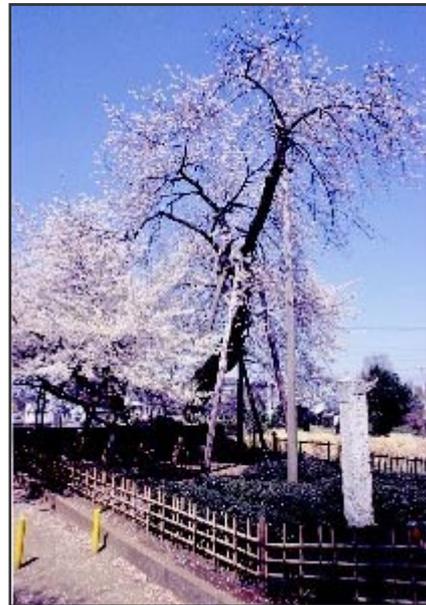
北関東自動車道の一部完成に伴い、都心や甲信越方面からの観光客増加が見込まれる。全面開通後は、千葉県、茨城県、栃木県及び東北地方の観光客の増加が期待されている。また、去年の観桜客（推定 7 万人）のほとんどが日帰り客であるが、村内 3 ヶ所の温泉地（収容数 410 人）への集客を図る施策を検討したい。

7 埼玉県北本市【www.city.kitamoto.saitama.jp】

■まちの概要

埼玉県のはぼ中央部に位置し、面積 19.84 平方 km の広がりをもつ。また、東京から 40~45km 圏にあり、市の中央部を JR 高崎線が走り、さらに、国道 17 号が並行していることなど、交通の便に優れ首都圏の住宅都市として発展してきた。

市内に平地林が多く点在していることから、「緑にかこまれた健康な文化都市」を将来都市像に掲げ、桜や四季の花が咲き誇る豊かな自然と都市が共生したまちづくりに向け、現在様々な施策を展開している。



■さくらの概要

桜は、日本五大桜の一つとされ、また、国の天然記念物に指定されている「蒲桜」の名木が当市に存在していることなどから、昭和 52 年に「市の木」に制定された。

平成 9 年度には、市のイメージを高めるため、市民と行政が一体となって魅力あるまちづくりを推進するための指針として「北本市イメージアップ推進計画」を策定し、当市にとって歴史的ゆかりがあり、イメージアップの要素である蒲桜を核に、「感動桜国きたもと」をキャッチフレーズとし、「感動桜国」を「観せる」「伝える」「創る」という 3 つの展開方針に沿って、各種の事業を推進している。

■サミットテーマ「さくらと歩む地域の未来」について

①さくらを中心としたまちづくり

平成 3 年度、国が提唱する「ふるさと創生事業」を受け、市民が誇りと愛着を持ち、併せて市のイメージを高めるための一事業として、市西部地域を対象に地域の特色である桜と歴史を素材にした「さくらと歴史の郷づくり事業」を位置付け、平成 9 年度「北本市イメージアップ推進計画」を策定し、『感動桜国きたもと』をキャッチフレーズに各種の事業を展開している。

本市に唯一残る五大桜の一つでイメージアップの要素をもった「石戸蒲ザクラ」を題材に、民間団体等による桜関連特産品の開発促進がなされ、これらを支援しているが、観光的には取り組みの経緯も浅いことから時間を要するだろうと思われる。

②さくらをめぐる観光と交通

本市のキャッチフレーズである『感動桜国きたもと』を伝えるため、「石戸蒲ザクラ」を核にさくらの PR に努めているが、都市の性格や他の観光資源を含む観光地理的条件から見て、宿泊施設の整備は検討を要する。

観光的には、開花時期等に市民を中心に県民（特に近隣住民）が主であり、今後さらに、さくらのイメージアップを推進することにより、広く県外者の観光も多くなっていくものと考えられる。

【観光流通対策】

- イメージを PR するマークづくり
- PR 活動の拡大
- イベントの開発・展開

8 埼玉県幸手市【www.city.satte.saitama.jp】

■まちの概要

関東平野のほぼ中央、埼玉県の北東部に位置し、北は茨城県、東は千葉県に接しており、市の東側を江戸川が南下している。面積は 33.95 平方 km、市街地の標高は約 10.77m、市全体でも標高差 11.2m と平坦な地形である。平成 13 年度に市制施行 15 周年を迎えた人口約 57,000 人、19,000 世帯のまち。



■さくらの概要

市内北部の権現堂堤が桜の名所として知られている。堤は約 400 年前に築かれ、江戸期を通して江戸を水害より守った。大正 9 年に約 4 里にわたり桜が植栽されたが、戦中から戦後にかけて伐採されてしまう。その後、昭和 24 年に地元住民等により桜の植栽が進められ、現在約 1km にわたり約 1,000 本の桜が続き、例年大勢の花見客で賑わっている。

権現堂堤の桜は、トンネル状に満開になった桜と、周辺に植えられた菜の花とのコントラストが見どころである。

■サミットテーマ「さくらと歩む地域の未来」について

① さくらを中心としたまちづくり

本市の観光資源である権現堂桜堤は、満開の桜のピンクと菜の花の黄色とのコントラストが好評で多くの観光客が訪れます。

しかし、権現堂桜堤の賑わいは桜まつりの期間中だけで、桜が終わると閑散とじてしまいます。

この桜堤を、1 年を通して市民が憩える場所にしたいとの思いが地元ボランティア団体から持ち上がり、この団体の自主的な活動として、毎年少しずつ紫陽花を植栽してまいりました。今では、約 2,000 本が植えられ、6 月から 7 月上旬にかけて色とりどりの花を付け、桜まつり後の憩いの場として変貌しつつあります。

また、市といたしましては、総合振興計画において権現堂桜堤をはじめとする市内の名所、史跡と商店街等を結ぶ散策道の整備が位置付けられており、今後、他の観光資源とのネットワーク化を検討しています。

② さくらをめぐる観光と交通

本市の広域道路体系は、国道 2 路線と県道 14 路線で構成されております。また、首都圏中央連絡自動車道が幸手市を縦断するように計画されており、IC も設置されることから、交通アクセスが更に整備される予定です。

こうした中、桜まつり期間中は市内のどの路線も大変な交通渋滞を引き起こしているため、交通渋滞の緩和が課題となっています。渋滞の要因としては、年々増加する観桜客に対し駐車場の整備が不十分であることがあげられます。

今後の対応策として、桜堤周辺にはまだ駐車場として利用可能な場所があることから、埼玉県や民間にも協力を求め、受け入れ体制を強化していきたいと考えております。

9 東京都北区【www.city.kita.tokyo.jp】

■まちの概要

東京の北の玄関口に位置し、平成10年「第10回さくらサミット in 北区」が開催され、全国に桜文化が発信された人口約32万人のまち。桜の名所地「飛鳥山公園」に同年全国初の公・民営の3つの博物館が同時に開館したほか、東京初の防災センターや、旧古河庭園、桜の名所の岩淵水門などを有する。



■さくらの概要

東京の桜の名所の一つである飛鳥山公園の桜は、徳川八代将軍吉宗の時代に植栽され絶好の行楽地として桜の名所地となり、現在も多くの花見客が訪れる。戦後数度の大規模改修が行われたが、現在では飛鳥舞台や井桁噴水など桜と水と自然石の調和による趣豊かな歴史公園として評価されている。現在、荒川赤羽緑地の堤防に桜を植栽し、桜のプロムナードとして整備するほか、平成10年知水資料館も開設され、桜をシンボルにしたまちづくりが展開されている。

■サミットテーマ「さくらと歩む地域の未来」について

①さくらを中心としたまちづくり

北区の「さくら」の名所は、徳川八代将軍吉宗時代に植栽された「飛鳥山公園」ですが、ここは交通の便が良いこともあって、都内はもとより近県からも多くの花見客が集まり、例年大変賑わいます。

また、最近では「荒川土手さくら祭り」や「ふるさと滝野川さくらまつり」など、地域住民や商店街等が主体となって運営しているものがあります。

「荒川土手さくら祭り」は、都内の下町を流れる「隅田川」の起点となる岩淵水門周辺で実施されています。花見客として訪れる人々は、近くにある水門や資料館等にも立ち寄り、これらの施設も今ではさくら以外の北区の名所として知られつつあります。

②さくらをめぐる観光と交通

さくらの開花時期のPRとしては、地域住民が協賛団体に協力を求め、ボンボリを点灯し、夜桜を演出するとともに見学者の安全に配慮しています。

また、商店街等は地域産業活性化の一環として、「さくらまつり」を実施しています。

10 新潟県上越市【www.city.joetsu.niigata.jp】

■まちの概要

その昔、越後国府が置かれ、古くから交通の要衝として栄えた上越市は新潟県の南西部に位置し、市の西部には丘陵地帯、東部には高田平野が広がり、中央を関川が貫流する商工業都市で、昭和46年に港町の直江津市と城下町の高田市が合併して誕生した。

港湾整備、火力発電所の建設、北陸新幹線など多くの大型プロジェクトが進行する中でも、もてなしの心を育み、「人にやさしいまちづくり」を目指している。



■さくらの概要

ソメイヨシノを中心に約4,000本の桜が植えられている高田公園では、毎年見頃となる時期にあわせて観桜会を開催。ボンボリの明かりに照らし出され、お堀の水面に映る様は大変美しく、日本でも有数のものとして知られている。

この桜は、陸軍第13師団の入城を祝い、在郷軍人団の呼び掛けにより集まった寄付をもとに、明治42年3月に2,200本の桜を植樹したのが始まりである。

昭和55年、市の木として「桜」を制定。平成8年度から市内を1万本の桜で埋め尽くし、上越市を桜の都とする「1万本の桜が咲き誇るまちづくり」計画に取り組み、平成12年度、1万本を達成した。

■サミットテーマ「さくらと歩む地域の未来」について

①さくらを中心としたまちづくり

高田公園は、家康の六男 松平忠輝公が築城した高田城跡である。4,000本の桜は、特に「夜桜」として知られ、毎年多くの花見客が訪れている。

長い歴史に育まれた上越市は、戦国時代の名将 上杉謙信公の居城跡 春日山、浄土真宗の開祖 親鸞聖人ゆかりの名刹の数々、日本のスキー発祥地 金谷山など様々な名所、旧跡を有している。また、日本の郵便制度を制定した前島密、日本画家の小林古徑など多くの文化人も生まれており、ゆかりの記念館などが存在する。しかしながらそれらは点在しており、線としての繋がりが弱いのが現状である。今後は、観桜会の花見客へ四季折々の上越をPRし、モデルコースを紹介するなど年間を通じた誘客を図っていききたい。

②さくらをめぐる観光と交通

会場までのアクセスは、4kmと6.5kmの距離に2つのICがあり、車利用者には大変便利な地点にある。しかしながら、毎年渋滞に悩まされ、公共交通機関を利用しても、最寄りの駅からは約1.5km、徒歩で約20分と少し距離があるように感じる。

少しでも交通渋滞を緩和させるため、すでに実施している駅周辺から会場への吊ボンボリや、雪国の知恵「雁木」の通りを歩いてもらうなど、会場までの町並みを楽しめるような誘導方法を検討したい。

また、市内には団体客受入れ可能な宿泊施設が少なく、近隣の温泉地などを利用する客が多い。今後は近隣市町村と連携を図りながら、広域的なPRを展開していく必要がある。

11 新潟県加治川村【www.vill.kajikawa.niigata.jp】

■まちの概要

北緯38度線が通る村「加治川村」は、日本有数の穀倉地帯である蒲原平野の北部に位置する純農村である。豊かな自然に恵まれ、良質なコシヒカリを産出する「桜とコシヒカリの里」。



■さくらの概要

○国天然記念物「とちだいら椽平桜樹林」

日本一小さい山脈である櫛形山脈の中央にある大峰山（399.5m）付近の山腹に桜の原始樹林帯があり、約40種、1,000本以上の桜があるといわれている。この桜は人工的に移植したものではなく、何万年も前に自生したものが長い年月の自然交配により多数の変種の山桜になったものである。昭和9年には約117haの桜樹林が国の天然記念物に指定されている。開花期は4月下旬から5月上旬。

大正天皇の即位等を記念して、大正3年に加治川堤28kmに桜6,000本を植栽した「長堤十里の桜並木」は日本一ともいわれ、花見客用の臨時停車駅もできるほどだったが、昭和41年、42年の連続大水害による河川改修のためにすべて失われてしまった。しかし、現在では建設省の「桜堤モデル事業」に認定され、周辺4市町村で「桜の里親制度」等により復元されている。

平成9年に、大峰山のふもと5.2haに桜公園を開園。世界の桜109種類を植栽し、四季を通じて観桜できる公園をめざしている。

■サミットテーマ「さくらと歩む地域の未来」について

①さくらを中心としたまちづくり

純農村であり、主産業を農業として展開してきた本村にとって、観光施策の立上げはごく近年のことと言っても過言ではない。雑誌や専門誌などでの掲載によって、県外客が確実に増加している大峰山の桜（椽平サクラ樹林）を核に、加治川堤桜（復元）、桜公園（102種、300本）の結びつけと、可能なら現在ほとんどない経済効果のある取り組みが必要である。大峰エリアにある中世城館遺跡（国指定）や、親水公園の整備、群舞するゲンジボタル等の資源活用など春以外を点で繋ぐ観光施策がこれからの大きな課題である

②さくらをめぐる観光と交通

大峰山の場合、ほ場整備等事業や県事業で道路の拡幅がなされ、駐車場付近までの大型バスの進入が容易になったが、ピーク時は駐車場の収容台数が絶対的に不足であり、開花時期によっては農道への駐車等で農繁期（代かき、田植え等）作業の支障をきたすこともある。（一般国道等への影響はほとんどない。）

また、村内における宿泊施設は温泉宿1軒のみであり、観光流通対策等のPRも特には行っていない。

12 長野県高遠町【www.town.takato.nagano.jp】

■まちの概要

長野県南部の城下町。特産品は歴史のある高遠まんじゅう、高遠焼、木材の彫刻製品が主なものである。

■さくらの概要

高遠は南北町時代の高遠氏に始まり江戸時代の内藤氏まで城が形成され、南信濃の中心地として栄えてきた。戦国時代には武田信玄が本格的な城塞を築き、江戸時代は会津藩始祖の保科氏を始めとした高遠藩3万3千石が置かれ、城下町が発達した。廃藩置県により高遠城は取り壊され、あたりは一時荒廃したが、明治8年有志が近くにあった桜の植樹をして高遠城址公園としての整備が始まり現在に至っている。この桜はタカトオコヒガンザクラというコヒガンザクラの仲間としては大木となり花も赤みが強い特種な桜で、樹林は県の天然記念物に指定されている。



■サミットテーマ「さくらと歩む地域の未来」について

①さくらを中心としたまちづくり

高遠町では、「桜からのまちづくり」をテーマにした「高遠さくら計画」を策定し、桜ばかりでなく花による観光の通年化を計るための施策を実施している。その足掛かりとして、昭和61年には桜シンポジウム、平成元年にはさくらサミット、平成2年には国際桜シンポジウムを開催し、日本はもとより世界に向けた桜の情報基地として、桜による文化や活性化の交流を行った。

「高遠さくら計画」のメインは、花の丘公園建設事業であり、多種の桜を期間を長くして多くのお客様に見ていただくことを目的に住民総参加で植樹を行い整備を進めている。また、桜だけでなく様々な花も楽しんでいただけるように併せて整備を進めている。

高遠にしかないタカトオコヒガンザクラを後世に引き継ぐため、昭和54年には「桜憲章」を制定し、町民をあげて町の宝として保護に努めている。

②さくらをめぐる観光と交通

1ヶ月にわたる「さくらまつり」では、連日多くのお客様をお迎えするため、事前に約8,500枚のポスターを県内外に発送してPRを行っている。また、連日多くの車が訪れるため期間中公園周辺は交通規制を行い、職員総動員体制で交通案内、臨時駐車場への対応を行っている。渋滞を解消するため、遠い所の臨時駐車場からはシャトルバスを、町内では高遠駅を起点に循環バスを運行している。平日でも渋滞すると小中学校のグラウンドを臨時駐車場として利用させて頂いている。夜桜を目当てのお客様も増えてきているため、夜は10時までライトアップして桜を楽しんで頂いている。

また、まつり期間中に名物の高遠まんじゅう、高遠そばの大食い大会や桜茶のサービスを行い特産品のPRも行っている。

13 愛知県三好町【www.town.miyoshi.aichi.jp】

■まちの概要

愛知県のはぼ中央、名古屋市と豊田市の間に位置する都市近郊の自然に恵まれた町。

三好町は、柿・梨・ぶどう等を特産物とする農業と自動車関連企業等の工業、魅力ある商業施設の立地など、各産業がバランス良く調和して発展してきた。



■さくらの概要

毎年3月下旬から4月中旬に三好桜まつりが開催される三好公園では、三好池を囲むように植えられた2,000本の桜が一斉に咲き、散歩や花見客の目を楽しませている。

また、同公園で桜の開花時期に併せて、桜マラソンや国際レディースカヌー大会を開催するなど、三好町の春は桜とともに始まるといっても過言ではない。

また、保田ヶ池公園でも、お花見広場や1周約1キロの散策コースでゆっくり花見ができる。どちらの公園も桜の季節は夜間ライトアップされ、夜桜が満喫できる。

近年では、花と緑のセンター「さんさんの郷」を含む立地を活かした新たな「さくらの園」の名所づくりが地域の人々の手により整備が進められ、「さくらの核」「さくらの軸」「点在するさくら」など、新旧の様々な桜のあるふるさとの風景づくりを計画している。

■サミットテーマ「さくらと歩む地域の未来」について

①さくらを中心としたまちづくり

現在、「三好桜まつり」として展開している三好公園及び保田ヶ池公園の桜のPRに努め、観光客の集客を図り、新たなさくらの名所づくりによる桜のあふれる街づくりを促進する。

②さくらをめぐる観光と交通

三好桜まつりは、三好公園と保田ヶ池公園の2ヶ所で毎年開催しており、交通アクセスは充実している。

三好公園へは、電車からバスに乗り換えて「新屋」駅下車、徒歩10分。車では東名高速道路「東名三好」IC下車、南へ10分の距離にあります。

保田ヶ池公園へは、電車からバスに乗り換えて「三好サンアート前」下車5分、「保田ヶ池公園」下車1分。車では三好公園同様、東名高速道路「東名三好」IC下車、南へ15分の距離にあります。

なお、PR活動としては、ポスター、広報、CATV及びミニFMを展開している。

14 奈良県吉野町【www.yoshino.ne.jp/yoshino】

■ まちの概要

奈良県のほぼ中央部に位置して、市街地に接して約30平方kmにも及ぶ地域が吉野熊野国立公園の一画をなしているのをはじめとして、緑豊かな自然観光地である。また、町のいたる所に縄文時代から近代にいたる遺跡や名所旧跡が点在している。山岳宗教修験道の根本道場である金峯山寺をはじめ多くの寺社があり、それぞれ太平記の時代をはじめ各時代の歴史的文化財が数多く所蔵されており、歴史的文化遺産の町でもある。



■ さくらの概要

吉野山の桜は、およそ1,300年前に役行者が、修験道の本尊である蔵王権現を山桜の木で刻んだといわれる伝説によってご神木とされ、多くの参詣者が信仰の証として『献木』したことにより、吉野は桜の山になったといわれている。全山に約3万本の桜が植栽されているといわれ、そのほとんどを日本古来種であるシロヤマザクラが占めている。4月初旬から下旬にかけて、山を咲のぼる様は見事としかいようがない。

しかし、近年の一時期、病害虫の発生や環境の変化により桜の樹勢衰退が顕著になったが、各方面からの提言に基づき様々な手当がなされ徐々に往時の景観を取り戻しつつあるが、今後も継続的な保護育成を行なう必要がある。

■ サミットテーマ「さくらと歩む地域の未来」について

① さくらを中心としたまちづくり

吉野町では、名称に指定されている吉野山の桜樹林と国宝金峯山寺蔵王堂をはじめ国宝重文などの文化遺産や史跡を、「紀伊山地の霊場と参詣道」の一画として、ユネスコの世界遺産に登録することを目指している。「紀伊山地の霊場と参詣道」とは、吉野山・大峯山・高野山・熊野三山などの紀伊山地の霊場と、それぞれを結ぶ大峯奥駈道・熊野古道を指し、現在、世界遺産暫定リストに登載されている。紀伊山地に点在する霊場が往古より護り続けている文化遺産を、連携して世界にPRすることが、取りも直さず観光の通年化を図ることになり、吉野町内の桜と桜以外の観光資源のみならず、他地域の観光資源とのネットワーク化を図ることと考えている。

② さくらをめぐる観光と交通

吉野山への進入路は道幅が狭く、観桜期には隣接町村にもおよぶ交通渋滞が発生する。そのような状態を少しでも緩和するため、観光協会と行政が連携して吉野山の麓からシャトルバスの運行を行っている。しかし、財源や人員の関係から日数も限られていることもあり、それによる交通の緩和はごく僅かとしかいえず、更なる対策を講じる必要がある。

また、吉野山には旅館、宿坊、民宿など20数件の宿泊施設があるが、宿泊希望者の多くはその望みが叶えられていない。今後は、標高の高い場所への桜植樹などにより開花期間の延長を図るなどの策を講じて、少しでも多くの観桜希望者の望みを叶えようよう努める必要がある。

15 鳥取県西伯町【www.saihaku.net】

■まちの概要

中国地方、山陰にある西伯町は鳥取県の西部に位置し、北は米子市、西は鳥根県伯太町に接しており面積83.08平方km、人口8,300人の典型的な中山間地域です。以前は米、和牛、薪炭生産の町として知られていましたが、農業構造改善事業や企業誘致、住宅団地造成等により近年兼業化が進んでいます。



■さくらの概要

江戸時代、出雲街道の宿場町として発達した西伯町では、法勝寺城山公園（法勝寺城跡）で例年4月上旬～中旬までを花まつり期間として、この期間は町内外の住民の憩いの場になっている。期間中公園一帯が桜の花に包まれるため、ボンボリが設置され、川面に映る夜桜見学も行なわれている。また、4月中旬には、全国でも数少ない郷土伝統文化財「一式飾り」が行なわれる。なお、花まつりに併せて中央公民館主催の公民館まつりが行なわれ桜とともに最も賑わう時を迎えます。

- 法勝寺城山公園及び法勝寺川堤防 1,000本
- 妙見山公園 300本
- 緑水湖周辺 1,000本

■サミットテーマ「さくらと歩む地域の未来」について

①さくらを中心としたまちづくり

西伯町の法勝寺城山公園を中心として、4月上旬に3,300本のさくらが一斉に花を咲かせます。この時期に併せさくらまつりを開催し、町内外からたくさんの人々が訪れ、さくらの花吹雪に酔いしれています。

さくらまつりの期間中に、町の無形文化財「一式飾り」が開催されます。一式飾りは、江戸時代の末頃から始まったと言われ、製作に条件があり食器なら食器だけ、農具なら農具だけで頭身大の動物、漫画の主人公等のキャラクターを製作し、民家の軒先に展示して町内外から多くの見物客で賑わいます。展示は約30作品で1年に2日間のみ。展示後は、元の生活用品に分解し使用され、町では、桜と一式飾りを中心としたまちづくりを進めています。

②さくらをめぐる観光と交通

さくらまつりの期間中は、法勝寺城山公園、川土手の交通を止め、一方通行にして見物客の交通対策を講じている。また、さくら情報の発信は、JR米子駅の「桜だより」にて米子支社エリア内41駅に開花情報を提供している。情報内容は、「未開花・つぼみ・1部咲き・3部咲き・5部咲き・7部咲き・満開・散りはじめ」の8種類。また、各種新聞、テレビ、ラジオ等に情報発信している。

16 島根県木次町【www.town.kisuki.shimane.jp】

■まちの概要

木次町は島根県の出雲部中央に位置し、古くからこの地域の商業や地方の政治、交通の中心として栄え、昭和50年代には木次拠点工業団地の完成、平成に入ってからにはJR木次駅周辺の再開発、今年度末に供用開始が予定される中国横断自動車道尾道松江線・三刀屋木次インターの整備などを行い、「さくら咲く健康のまち」をキーワードに活力ある町づくりを進めています。



■さくらの概要

平成2年3月、「日本さくらの会」より、日本桜名所100選に認定された「斐伊川堤防桜並木」は、ヤマタノオロチ伝説の舞台ともなった斐伊川の清流に沿って約2kmにわたり、約800本のソメイヨシノを中心とした桜が植えられ、花の見頃には桜のトンネルとなり、中国地方随一の名所としてその名を馳せており、今年3月18日に発行されたふるさと切手の題材としても取り上げられている。

現在、斐伊川堤防など町の中心部には約1,500本の桜があり、永年の目標であった21世紀に町内の桜を5万本にする計画についても2000年秋には達成することができた。また、笹部桜の育苗・保育についても研究機関等の協力を得て、実施をしているところである。きすき桜まつりの期間中（本年は3月23日～4月21日）には、ボンボリやライトアップの点灯により、夜桜を楽しむことができる。4月6日～7日をメインの日として、約1,000発の打ち上げ花火やかがり火の中で郷土芸能である出雲神楽を舞うなど、各種イベントも開催した。平成15年4月には、(財)日本花の会との共催により、全国さくらシンポジウムを開催することとしている。

■サミットテーマ「さくらと歩む地域の未来」について

① さくらを中心としたまちづくり

本町の主な観光資源としては、桜・ヤマタノオロチ伝説にまつわる伝説の地・健康農業のシンボル農園である「食の杜」・温泉・JR木次線のトロッコ列車・道の駅「さくらの里」等が挙げられる。

さくら以外は、どれも通年型の観光施設であり、年間35万人程度の入込み人口があり、特に平成9年に健康温泉センターが完成してから高くなっている。町内の観光施設については、本町の特色である桜とヤマタノオロチ伝説を統一モチーフとして利用しており、春だけでなく、どの施設でも通年を通し、「さくらのまち」が感じられるものとしている。また、さくらのホームページを開設し、春の開花状況はもちろんのこと、青葉の頃、せみ時雨の並木、晩秋の様子、雪の積もる桜の木など四季を通じ、情報の発信を行っている。

② さくらをめぐる観光と交通

本町桜並木は、斐伊川（一級河川）にあるため国土交通省のご理解を得、河川敷3箇所を駐車場として利用し、また、役場周辺や小学校グラウンド、JR木次駅前にあるショッピングセンター駐車場等も使用するため、駐車台数の問題はない。しかしながら、道路の渋滞が生じるため、意図的に近道の看板を立て、混みやすい道への車の流れを少なくするようにしている。PR活動については、さくら祭りポスターを中国・九州地方のJR各駅に掲載して頂いているほか、広島市においてテレビ局の協力を得、物産観光イベントを毎年3月に実施し、さくらや観光施設のPRを行っている。（無料CMスポットの効果が大きいため）

17 島根県美都町

■まちの概要

県西部に位置し、中国山脈の嶺線に近い傾斜の中間地帯にある、四面を山々に囲まれた町。また、高齢化率は34%で過疎・高齢化が全国的にみても顕著な地域となっている。町の産業は、山陰1位の生産を誇る柚子やメロン・イチゴ・ハウレン草などの施設園芸が盛んで広島・関西方面にも出荷されている。また、平成3年にオープンした美都温泉には年間15万人の入浴者で賑わっている。



■さくらの概要

美都町は「桜と柚子と温泉のまちづくり」をキャッチフレーズに地域振興に取り組んでいる。町内には、県指定文化財・天然記念物に指定されている「金谷城山桜」がシンボルとしてあり、現在「美都町桜の会」（町内外会員総数160名）を中心として、桜の苗木の植栽と桜愛護の活動に取り組んでいる。

特に、「美都町を桜の町として有名にしよう」と昭和63年から始めた「1万本桜植栽運動」は、平成7年には1万本を超え、その後も毎年植栽しており、桜の咲く季節になれば、町内各地で一斉に開花し、町民を始め、この町を訪れる人々の心を和ませている。

■サミットテーマ「さくらと歩む地域の未来」について

① さくらを中心としたまちづくり

美都町では「桜」「柚子」「美都温泉」の3つを観光の柱に掲げ、豊かな自然の中で心身の豊かさを実感できる『場・時間・モノ』が提供できればと考えています。町の魅力とイメージアップする仕掛けづくりが求められており、そのために観光資源を有機的に結び付けていくことが重要であり、現在本町では、「春は桜・秋は柚子・通年で温泉」と季節ごとに地域の特色が出せるように町づくりに取り組んでいます。また、特産品づくりでも特産の柚子商品だけでなく、桜を使った商品づくりにも取り組んでおり、道の駅等で地域限定商品として販売しています。しかし、質・量ともまだまだ不十分であり今後の更なる取り組みの強化が求められています。

② さくらをめぐる観光と交通

美都町を訪れる観光客は年間約20万人で、その中心は平成3年にオープンした「美都温泉」であり、町の「さくら」のシンボルである金谷城山桜は開花時期に約3,000人程度となっており、ほとんどが日帰り客となっています。金谷城山桜のある場所は、公共交通機関もなく、狭い県道・町道を通って行かなくてはならず、これまで駐車場や歩道の整備を行ってきましたが十分なものではなく、訪問客のニーズにできていないのが実情です。

しかしながら、一方では「そうした『辺地』なところを訪れるのがよいのだ」という意見も多数あり、町としては、いまの自然な形で後世に残していく方向で考えています。

18 高知県佐川町【www1m.mesh.ne.jp/sakawa】

■ まちの概要

高知県のほぼ中央部、高知市の西方 27km に位置する町。高吾北地域の交通、通信、文化、経済の中核として位置付けられている。



■ さくらの概要

牧野公園の桜は、明治 35 年、牧野富太郎博士が東京染井で発見した桜の種ソメイヨシノを送ってこられ、それを地元の有志が植えたことに始まる。大正 4 年、町が 1,300 本のソメイの苗木を購入し、町内の道路沿いや各地区に植えたことで、名所「桜の佐川」として有名になり、その中心が奥の土居（牧野公園）であった。戦時中は、食料増産ということで畑に開墾されたが、昭和 24 年、町、商工会等により桜やつつじなどが植えられ再び花見処となった。牧野公園には、平成 78 年度で、売店棟、便所、駐車場、植栽等の工事を行い、四季を通じて利用できる憩いの場として整備をした。約 2,000 本の桜は、古い街並みとあいまって、情緒あふれる花見ができ、県下一の花見処である。

■ サミットテーマ「さくらと歩む地域の未来」について

① さくらを中心としたまちづくり

佐川町の桜の中心地である牧野公園は、ほとんどの桜がソメイヨシノであり樹齢 50 年以上である。公園は、北向き斜面で植栽間隔が充分でないため、枝が横に広がらず樹高だけが伸び天狗巣病の除去が難しくなっている現状にある。

このため、本年から枝打ちや間伐を行なうとともに、植栽面積の拡大を図る計画を検討中である。また、多品種の桜やつつじ等の植栽を行い、四季を通じて利用される公園を目指す計画も併せて検討中である。

② さくらをめぐる観光と交通

牧野公園周辺は、駐車場が分散し且つ広くないため、入口付近の道路は桜のピーク時には大変混雑している。このため、交通整理の人的費用が必要で公園直近の駐車場は有料となり、利用客には不満もでているのが現状である。

今後の対策として、広い駐車場からのピストン輸送とか、公園入口付近の歩行者天国化も考えている。

19 長崎県大村市【www.city.omura.nagasaki.jp】

■まちの概要

長崎県の中央部に位置し、東西 12km、南北 16km、総面積 126.29 平方 km を有する人口 87,062 人（33,309 世帯）の市。

大村藩千年余の歴史の中で城下町として栄え、日本初のキリシタン大名となり、天正遣欧少年使節の派遣などの業績を残した大村純忠や、明治維新の偉業達成に重要な役割を演じた藩士を数多く輩出するなど「歴史のまち」である。

今日では、世界初の海上空港である長崎空港を有し、オフィスパーク大村、大村ハイテクパークの整備により、全国で最も起業しやすいまちとして注目を集めている。



■さくらの概要

長崎県随一の桜の名所として有名な大村公園は、大村藩主の居城であった玖島城跡で、約 21ha の広さを誇り、桜のほかつつじ、花菖蒲、アジサイと花の期間が長く続き、3月25日から6月20日まで花まつりで賑わっています。

桜の数は、ソメイヨシノ 1,500 本、オオムラザクラ 300 本、八重桜 200 本とあわせて 2,000 本あります。中でも、国指定の天然記念物であるオオムラザクラは、八重桜の二段咲きで花弁の総数が 60~200 枚もある優雅な花で、里桜中の名花とされています。

■サミットテーマ「さくらと歩む地域の未来」について

①さくらを中心としたまちづくり

大村市は、さくらの名所 100 選に選ばれた大村公園を有し、「さくらの街おおむら」を広くアピールするため、平成 7 年度から桜の植栽事業を展開し、市民への桜苗木の無料配布を実施するとともに、市の観光施設への植栽も精力的に進めています。平成 13 年度からは、行政だけでなく市民や各種団体が、ともに桜の保存・育成を行い、さくらの街をより一層推進するため、「さくらの街推進委員会」を設置しました。西暦 2010 年には、西日本一のさくらの街となることを目標とし、「桜」を中心としたまちづくりに取り組んでいます。

②さくらをめぐる観光と交通

大村市は、長崎県の中心部に位置し、世界初の海上空港、長崎自動車道など長崎県の交通拠点として、最も適した位置にある。このように素晴らしい利便性を持ちながら、周辺に長崎市、佐世保市、島原市など全国的に有名な観光地が数多くあり、大村市で宿泊し観光して頂くには厳しい状況である。

観光 PR については、大村市の観光の中心である桜の開花時期に合わせ、福岡市、熊本市などへ出向き、マスコミ各社への訪問、各種旅行会社へのツアー売り込み、旅行雑誌社への情報提供など、積極的に PR 活動を展開しています。

20 熊本県水上村【mizukami.kichi.com./index.html】

■まちの概要

熊本県東南部、宮崎県との県境に位置し、総面積 192.11km のうち、92%が森林に囲まれた村。日本三大急流のひとつ、「球磨川」の源がある自然豊かな村。



■さくらの概要

昭和 35 年、村の中央部に洪水調節を主目的とした多目的ダム「市房ダム」が完成し、修景事業の一環として昭和 37 年に付け替え道路となったダム湖周辺 14km に 1 万本の桜が植栽された。その後、昭和 59 年に始まった「くまもと日本一づくり運動」のなかで、当時の県知事であった細川護照氏の提唱により、市房ダム湖周辺で育まれた 1 万本の桜を核にした「日本一の桜の里づくり」が始まった。現在、住民総参加の桜の下草刈、空き缶・ゴミ拾い等、住民一人ひとりの手で育てられている。また、平成 9 年度より樹木医の指導を仰ぎ、土壌改良、間伐等、年間約 500 万円の経費を費やし、桜活性化対策事業に取り組んでおり、開始後 2 年目の後半より、新芽の徒長、花の付きなど目に見えて効果が現れており、今後も継続して行なう予定でいる。なお、桜園鑑園には、約 80 種類の桜の木が植栽されており、観光面での整備がなされている。

■サミットテーマ「さくらと歩む地域の未来」について

①さくらを中心としたまちづくり

3 月下旬から 4 月上旬に満開を迎える市房ダム周辺の 1 万本桜は、県内外から多くの観光客を呼び込めるようになり、九州管内でも有数の桜の名所として定着を見せてきた。

今年の桜は、3 月 16 日開花、第 31 回湯山温泉桜まつりを 3 月 30 日・31 日実施し、桜の花が保てるだろうか関係者をヤキモキさせたが、多くの観光客の目を楽しませてくれた。桜を核とした観光の通年化は、かなり難しいことから、本村では自然体験型観光「水の上の学校」を平成 9 年度から展開している。年間 20 メニューのイベントを開催し、村人が、先生になり都市住民との交流を図って、年間 2,000 人の人達が水上村を訪れ、自然の恵みや、村人の智恵を体験・体感している。地域の自然や資源を活用することでそこに住んでいる人々は、自信と誇りを持ち、より深く自然の大切さを感じるようになると同時に、村を訪れる人々は、山里の自然や生産の恵みに理解を深めるようになりつつある。

②さくらをめぐる観光と交通

桜の開花時期には、3 万人ほどの観光客が訪れる。国道 388 号線のルート 1 本のため桜祭りの時期には、渋滞を引き起こし、観光客に迷惑をかけているのが現状である。平成 9 年度からまつり会場近くに 500 台収容の駐車場を整備したが、最近では、観光会社の桜ツアーなどが企画され、県内外からのバスツアーが増加し、その対応にも苦慮している。

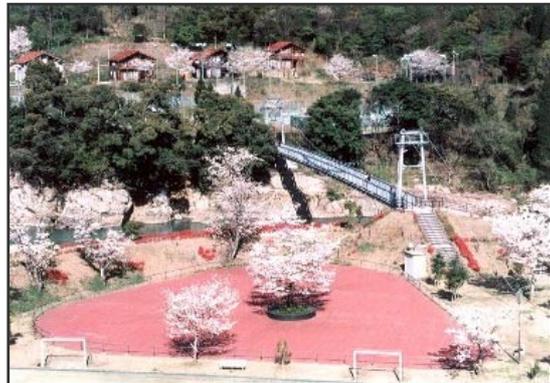
桜の咲く時期にも左右されるが、期間が長ければ、入込み客の分散化がなされ、イベント以外の時には、ある程度緩和される。現在のところ、方策を検討しているところである。桜の時期には、村内の旅館・民宿は満杯状態であり、人吉球磨地域の旅館等への誘客にも繋がっている。

PR については、地元のテレビ、新聞、ラジオ等に広告を出しているが、取材で多くの報道機関が取り上げてくれるので特別な宣伝対策は行っていない。

21 宮崎県北郷町【www.miyazaki-nw.or.jp/kitago】

■まちの概要

さくらのまち日本一を目指し、昭和56年から桜の植栽運動を展開している。温暖な気候と人情豊かな町民、そして、緑と清流と温泉のまち。



■さくらの概要

370年の歴史を誇る飢肥杉のまちで、この豊かな杉林の緑の中に、色鮮やかに春の訪れを知らせてくれる山桜が数多く生息しているところである。植栽は、自治公民館や各種民主団体、誘致企業等の協力のもと、公共施設周辺や浴道など約1万8,000本程度の植栽を完了している。また、当町は宮崎日南海岸リゾート開発の保護・歴史リゾートゾーンに位置付けられ、静かな高原にリゾートホテル、ゴルフ場が整備されているほか、周辺には緑豊かな自然を生かしたレクリエーション施設や公園を数多く有している。特に高原にはリゾート施設の整備とともに、桜のまちづくりの拠点として1万本の桜が植栽され、平成10年度から遊歩道やトイレ、広場の整備のほか、四季を通じた草花の植栽を行い、さくらまつりを開催するなど、楽しまれる「さくら公園」としての整備が進められている。

■サミットテーマ「さくらと歩む地域の未来」について

① さくらを中心としたまちづくり

本町の桜の中心地である花立高原は、平成9年度までは桜の植栽・育成管理だけを実施していたが、標高350mからの景観はすばらしく、毎年開花時期に訪れる人が増え、公園整備の要望が高まってきた。このため平成10年度からトイレや駐車場など、公園としての整備を行い、併せて桜イベントを実施し北郷町の桜の景勝地としてPRを行っている。

しかしながら、桜の開花期間が約2週間と短いため、つつじや紫陽花など低木の植栽のほかエビネ蘭の森、花畑の整備など、四季を通じて利用される公園化を目指している。

今後とも、自然環境に配慮した整備を推進し、期間中、物産や温泉施設など他観光資源との周遊ルートの形成はもとより、県内外に発信できる桜公園の代名詞としての確立に努め、総合的な観光の振興を図る。

② さくらをめぐる観光と交通

花立桜公園は標高350mに位置し、麓から山頂まで幅員4.5mの道路で、迂回路はない。現状では入り込み客が少なく、支障をきたすことはないが、将来的には対策が必要となるだろう。

現在、トイレを麓と山頂の2箇所に設置しており、麓から山頂まで散策できる遊歩道を整備。車については、山頂までの間に駐車場を分散し設置することにより混雑を緩和している。

22 岐阜県根尾村【www.neomura.jp】

■ まちの概要

国指定天然記念物の淡墨桜をむらづくりのキーワードとして、桜の植樹運動を進めている。清流・根尾川が中央を流れ、四方を美しい緑の山々に囲まれた自然豊かな山村。



■ さくらの概要

樹齢1,500余年の淡墨桜は、第26代継体天皇のお手植えの桜と伝えられ、樹高約16m、幹回り10m、枝張りは東西27m、南北20mと桜では日本一の巨樹と言われ、日本さくら名所100選にも選ばれた。国指定の天然記念物、蕾のときは薄いピンク、満開に至っては白色、散りぎわには特異の淡い墨色をおびてくる。過去、幾度も雪害や風害により枯死の危機に陥ったが、山桜の根継ぎによる回生手術や作家宇野千代女史ら各界の保護活動によって、現在も盛観を保ち、昭和55年度から10年間で淡墨公園として整備され、毎年4月上旬には全国から20万人もの観光客が訪れる。淡墨桜を愛する人は、国際化の流れの中で、国内にとどまらず世界にも広がっている。平成11年11月アメリカ合衆国ボトマック公園に淡墨桜の苗木が植樹された。

■ サミットテーマ「さくらと歩む地域の未来」について

① さくらを中心としたまちづくり

日本人の心のふるさと＝桜＝をアイテムに、まちづくりを進めることができる地域は非常に恵まれている。先人の方々が築きあげた地域資源で村の宝でもある。しかし桜の見頃は非常に短く、この特異性を如何に活かすかが重要な課題となる。

当村では、うすずみ温泉を中心とした「NEO桜交流ランド」、濃尾地震の震源地を活用した「地震断層観察館」、大自然のパノラマのなかの「NEOキャンピングパーク」などを整備し、桜とともに四季を通じた観光交流の拡大を目指している。また、淡墨二世を金閣寺や出雲大社など全国各地に、海外では米国首都ワシントンDCなどに植樹し、情報発信と村活性化を進めている。「淡墨桜」の魅力を最大限に活かし、村の施設と連携を強化し村の活力づくりを図る。

② さくらをめぐる観光と交通

桜の見頃の短さは何処も同じで、この特異的現象にどこのまちも泣かされると思われる一時のために駐車場や施設整備へ投じられず、民間施設も一時のためだけへの設備投資は控えているのが現状である。桜季＝駐車場、オフ季は野球場やテニスコート等に活用するが満開時には全く台数確保が追いつかない。宿泊施設も同様で、桜季＝満室、オフ季は閑散状況となる。人材についても桜季＝商人、オフ季はサラリーマンへと変身を余儀なくされる状況である。厳しい財政状況のなか最良の投資効果を見いだすとともに、道路、施設、人材ともに、1ヵ月と11ヵ月の使い分けが課題となり、産業の少ない村では通年観光を図ることが最重要課題となる。

A series of horizontal dashed lines for writing, consisting of 20 lines.

A series of horizontal dashed lines for writing, consisting of 20 lines.

第 14 回さくらサミット in NEO
～さくらと歩む地域の未来～

発行日：平成 14 年 5 月 17 日

発行：岐阜県根尾村

〒501-1524

岐阜県根尾村板所 625-1

tel:05813-8-2511

fax:05813-8-2202

e-mail:info@neomura.jp

第14回 さくらサミット in NEO